

かえるのうた

第27号 2023・8月

ほんにかえるプロジェクト発行
編集責任者：汪 楠



受刑者作品 会員番号 A126 M.W.

設立8周年に向けて

ほんにかえるプロジェクトは2015年9月30日に設立しました。発起人はわたし汪楠で事務局長を現在まで務めてきました。初期の代表は田中伸彦さん、亡くなられて退任になりました。副代表はシスター井手愛子、所属修道院が閉鎖のため、シスターたちも全員高齢のため施設に入り、退任されました。

設立当初の事務局は江戸川区西瑞江4丁目にあり、自宅兼事務所で3LDK ですから一人暮らしには広いけど、活動を始めるとすぐに寄付された書籍で埋まり、寝るのも本の山の中でした。

2018年頃に事務局は現在の江戸川区春江町に移転し、この時期のスタッフは生活困窮者が多く、無職の私のほか、生活保護受給者3名、DV被害女性2名、ホームレス1名、覚せい剤8犯(今はさらに更新中)1名が常勤スタッフで、西瑞江と春江町で男女分かれてたまり、引っ越し作業をやりました。ほかのスタッフからの差し入れがあってもこのメンバーで食糧費が月に5~7万円もかかり、経費として計上することを認めない役員もいたため、私個人で負担し、生活が破綻した。

当時の年間支出は150万円で寄付金の収入は80万円でしたから、活動を継続させるためには男性スタッフが工事現場で働き、1万2千円から1万5千円の給料を現金でもらい、本人の手取りは5000円で、残りをかえるに寄付して日々の支払いに充てた。70代の無期出所者の松永さんが長老として事務所に残り、本田恵子さんが実務のトップとして丁寧に支援活動をしてくださった。

その本田恵子さんは内部会員が増えることによって支援内容の質が落ちることに反感を持ち、のれん分けという形で別の団体を作り、独立しました。そしてやはり入会希望者が殺到して、手が回らなくなり、サポートの質が落ちたと悩み、古い会員から退会させるよ

うになり、退会した会員が再びほんにかえるに戻ってきました。この問題には本当に悩みます。ほんにかえるも現在のキャパは120名程度ですが、入会希望者が多く、無下に断れない面もあり、通常で200名をサポートし、今年度末には250名体制に突入してしまいます。サポートの質は必然的に落ちます。質を落とさないためにも口コミでPJのことを宣伝しないでほしいのですが、わかってない会員も多く、より多くの受刑者が入会すれば知名度が上がるし、収入にもつながると思いついて入っている受刑者が多い。

実際は助成金といった公的資金を全く受け入れていないほんにかえるは会員が増えれば増えるほどスタッフの負担が増し、経費も掛かって赤字になります。それでもほんにかえるはいいぞと宣伝してくれる会員がいるので、入会希望者は年間で150名にも上り、理論上、旧会員を全員退会させて、やっと新規会員を受け入れることができる計算です。だからここで改めてお願いします。自分の依頼に早く対応してほしいければ、ほんにかえるの存在を新しい工場や刑務所で話さないことです。私たちはコツコツと皆様の支援をしたいのです。規模を大きくし、知名度を上げるつもりありません。

この7年間で西原瑛子さんも大変力を尽くしてくれて、入退院を繰り返しても活動をやめず、今日も頑張ってくれています。そして存続できるかどうかの瀬戸際で庄子佳代子さんが入ってきてくれて、唯一の常勤スタッフになり、毎日10時間以上の作業してくださって、団体は継続できているようなものです。

ここで名前をあげることができないスタッフも多く、正確な人数は私も把握できないのですが、グループラインに入ってくれているだけでも32人になりました。だから総勢は40人を超えます。感謝を申し上げます。

残念ながら受刑中に支援を受け、出所後にスタッフとして活動に参加した出所者スタッフは病死の松永さ

ん以外はなかなか継続することができず、初めから利用しようとあの手この手のストーリーを作り、金品を盗むものが何名もいた。そういう被害が出ても被害届を出すのは躊躇し、ほとんどは別件で逮捕されるのですが、訴えませんでした。こちらは更生を支援する団体ですから刑が増えるのは活動趣旨に反すると思うのです。それでも刑務所に行ってから再入会の申し込みが来ると、私の意向で入会を認めるようにしています。

これは私自身の過去を見たとき、更生させようと助けてくれた人がいたのに結果的に裏切ってしまう、だから何回も再犯し刑務所に行きました。それでもあきらめずに家族でもない弁護士や支援者の助けて私が今の生活ができたわけで、その人にもそういう機会を与えたい。だからPJは2度目でも3度目でも受け入れるようにし、その人の更生を願う。

でもPJのルールを守らず、無理な要求をしてくると、佳代子さんは優しいからわがままを聞いてあげても私はPJの責任者としてほかの会員のことも考えなければならぬので退会させようとしています。我々の大変さを見てきたわけですから、だからこれを読んでいる元スタッフの人には遠慮してほしい。助けを求める前に自分のしたことを認め、反省してほしい。私たちの活動は皆さんの寄付でぎりぎり成り立っています。盗まれた分もだまし取られた分も無報酬の私と佳代子さんが補填しているのです。その佳代子さんにどうして文句を言えるのか理解できない。常に100名以上の入会待機者がいるのに、それでもあなたを受け入れたその真意を組んでほしい。

話がそれましたが、PJが今日まで活動をして来れたのは黙々と裏方の仕事をしてくれるスタッフのおかげです。実は寄付の多くも身内のスタッフか、もしくはスタッフの知り合いであることが多く、先日もDV被害女性を加害者から守るために、役所の指導で携帯番号を変更する必要があると女性から言われて

33,000円の滞納金を貸したのですが、違うところに使われたようで、スタッフの一人が年金生活で決して裕福でもないのに補填したのです。

受刑者が勘違いしがちなのは、ボランティア団体はきっと国や企業からお金をもらって活動に使うのは一部で、ほかはスタッフの給与と経費に充てていてはないかという思い込みがあります。毎年公開している決算報告書を見てほしい。助成金も補助金も受け取っていないPJは純粋に理解者の寄付と年会費でどうにか活動できている状態で、購入代行で得た寄付で年会費免除した会員のサポートできているようなものです。役員報酬もなければ、交通費すら認めていません。こういう団体はなかなかないと自負しています。

8周年に向けて会員の皆さんにお願いがあります。「かえるのうた」に内外の会員の皆さんに寄稿していただきたいのです。今までは内部会員の来信を優先的に掲載してきましたが、今後はスタッフの声も載せていきたいと思います。どういう思いで活動に参加し、また活動に参加して感じたことなども載せていきたいと思います。よろしく願いいたします。

事務局長 汪楠

会員番号 A022 S.H.さん

汪さん

段々と暖かくなって、動きやすくなって来たこの頃、お元気でお過ごしでしょうか。

いつもかえるのうたや、プリズンライターズと一緒に送って下さる事務局長の一筆をおもしろ、おかしく読ませて貰っています。楽しそうですね(笑)。

既に知っていると思いますが、先日、千葉刑の職員が暴言とかで懲戒処分(停職)を受けたと、読売新聞で報じられました。今更という感もありますが、そもそ

け、現在服役中の身であります。今回逮捕されるまでずっと下町で生活をしていたこともあり、怒羅権の方とは何名か面識がありました。

まだ東京拘置所で控訴審のため収容されていた際に別件で来庁調べがありました。過去の友人が松葉会本部事務所へ火炎ビンを投げたとのことで、私とは無関係の事件についてのことでした。その際、私に話をききにきた刑事が過去に私がFさんとトラブルになったことがあるということを知っていました…。その話の延長線で、汪楠さんの名前をおききしたことを覚えております。怒羅権の初代の方で、現在は受刑者などを支援する活動を行なっているのだとききました。その際は私も無罪を主張していましたし、受刑者に対する支援といったことに全く興味がなく、詳しく尋ねることもありませんでしたが、現在私が配役されている工場（洋裁工場）でほんにかえるプロジェクトに入会している方がおり、パンフレット等を見させてもらい、私も入会したいと思った次第でございます。

私は地元や仲の良い知人などからは「かえる」という渾名で呼ばれていることもあり、親近感を感じます。

現在入会待ちの方々が100名近くいらっしゃるにしております。活動が広まり、活動に対して賛同してくださる方、それに寄付やボランティアの方々のおかげでなりたっているのでしょう。すばらしいプロジェクト、ならびに活動だと思います。私が入会するにあたってどれほどの期間を要することとなるのか分かりませんが、一日でも早く入会することができましたら幸いです。

汪楠様が書かれた著書も読んでみたいと前々から思っていたのですが、私のいる刑務所では禁止本という扱いで読むことは叶いませんでした。いつか機会があ

りましたら手に取って読んでみたいと思っております。

読売新聞で広告が載っており、知人に差入れしてもらったのですが…。

私なりにですが今後の汪楠様、並びにほんにかえるプロジェクトの活動をできる限りで応援させて頂きたいと考えておりますので、宜しければ長いお付き合いをお願い致します。

乱文乱筆で申し訳ありません。

お忙しいと存じあげておりますが返信、ご連絡をお待ちしております。

コロナも落ち着いてきたようですが、お身体にはお気をつけてお過ごし下さいませ。

それではこの辺で失礼させていただきます。

敬具



会員番号 A009 N.T.さん

汪楠様

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。私の問い合わせに対して、早速、庄子さんから丁寧な返信を頂きました。ありがとうございました。

庄子さんの手紙で私の再入会が認められたとありました。申し訳ありませんが、再度PJに入会させてください。宜しく御願ひ致します。

PJの内部会員の手引に、入会申込等は、汪さんに送るよう書かれていましたので、登録申込書を同封します。また、庄子さんから発信に210円切手を使っていましたし、「規約・疎明資料」を私に送るにも送料がかかるでしょうから、210円切手と140円分の切手も同封しました。

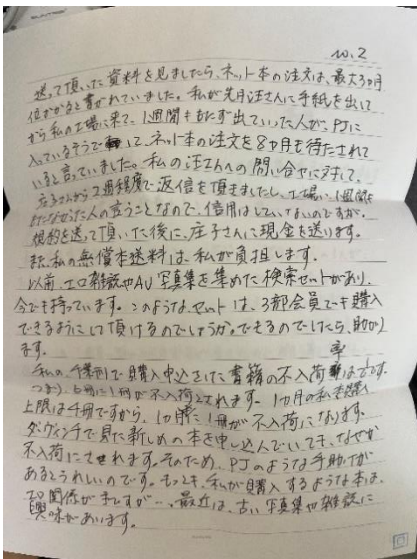
私が希望する会員種別は、第3部です。

2部かとも思いましたが、検索をお願いすると、PJ

の負担が増すかと思い、3部でお願いします。

送って頂いた資料を見ましたら、ネット本の注文は、最大3ヵ月位かかると書かれていました。私が先月汪さんに手紙を出してから私の工場に来て、1週間ももたずに出ていった人が、PJに入っているようでして、ネット本の注文を8ヵ月も待たされていると言っていました。私の汪さんへの問い合わせに対して、庄子さんから2週程度で返信を頂きましたし、工場に1週間ももたなかった人の言うことなので、信用はしていませんが、規約を送って頂いた後に、庄子さんに現金を送ります。

また、私の無償本送料は、私が負担します。



以前、エロ雑誌やAV写真集を集めた検索セットがあり、今でも持っています。このようなセットは、3部会員でも購入できるようにして頂けるのでしょうか。

できるのでしたら、助かります。

私の、当刑務所で購入申込をした書籍の不入荷率は1/6です。つまり、6冊に1冊が不入荷とされます。1ヵ月の私本購入上限は4冊ですから、1ヵ月中に1冊が不入荷になります。ダ・ヴィンチで見た新しめの本を申し込んでいても、なぜか不入荷にされます。そのため、PJのような手助けがあるとうれしいのです。もっとも、私が購入するような本は、エロ関係が主ですが…。最近、古い写真集や雑誌に興味があります。

今後共、宜しくお願い致します。

時節柄、呉々も御自愛ください。

敬具

P.S.かえるのうた第26号の汪さんの編集後記「間接的に暴力を振る…」に、すごーく納得しました。様々な制限も(例え違法な裁量も)この考えに基づいているのだと思いました。

(以下他団体に言及した部分で割愛させていただきました。)



会員番号 A319 Y.K.さん

初めまして、新年あけましておめでとうございます。年末のNHK紅白歌合戦で、工藤静香さんの親子共演で良かったのですが、本当は、酒井法子さんの、「蒼いうさぎ」が聞きたかったです。工藤静香工藤静香さんも酒井法子さんも同じ年です。それよりも、もう酒井法子さんの襦は済んだと…。清原和博さんにしても…。汪楠さんにしても…。

令和4年12月13日に更生保護施設不可の告知を受け…。ショック

庄子佳代子さんには、伝えておりますが、5月25日に社会復帰しますが、衣類がGパンとTシャツしかありません。その理由を伝えてないので、汪楠さんに教えます。私は、令和2年4月中旬から、千葉市若葉区XXXX(株)という協力雇用主の総合建設業の仕事をしていました。土木作業員です。飯場です。そこで、北海道三笠市から出稼ぎで仕事をしてた人と知り合い、「コロナに関係なく6月から農業用水路の仕事があるよ。」と言われ、この男YYYYという人を信じたのと、飯場である以上、家賃1日1500円、3食1500円で月9万円借金が増えている状態でした。令和2年4月は緊急事態宣告で…。

令和2年6月7日に、千葉から、三笠市に来ました。このYYYYという男は、日払いの約束は守らないし、仕事が終了すると、寮に戻るのですが、コンビニすらいけない軟禁状態でした。理由は、YYが、覚せい剤と大麻の薬物を使用していたのです。だから、6月19日仕事終わりに、隙を見て、作業着のまま逃げて…。そして札幌市生活困窮者支援ZZZZに助けいただきましたが…。生活保護申請中の決裁待ちの14日の間に、空腹に堪えることが出来ず…。スーパーでの食品万引での常習累犯窃盗2年8ヶ月で、令和5年5月25日社会復帰の身です。YYYYのところに、荷物を置いたまま逃げました。衣類等全部セカストに売られてしまいました。私の人の見る目がなかったと思います。だから、申し訳ないのですが、身長175cm、体重85kg、ウエスト90cm 3Lの衣類を差し入れして欲しいのです。スポーツウェア上下、スウェット上下、Tシャツ、下着、靴下、そして、靴28cmのサイズでお願い致します。

令和5年5月以降の郵送での差し入れをお願いします。

こちらの施設は全員個室。TVフリー。私は共同室の時はロジックをやっています。

汪楠さんは、LBの岐阜だから、こんなことはないと思いますけど、全国のB施設の一般工場の空気は、正直言ってシャブの情報交換とシャブ犯を作る場所です。LBの岐阜なら、組のために体をかけてきた人も多から、シャブは、ヤクザの世界では御法度だと思いますけど…。シャブ中が現役を名のる時代です。

私は、M刑務所の炊場において、その後懲罰で洋裁工場に行った経験がありますけど…。同僚と話が合わないのですし、合わせる必要もないと思い、よく担当の工場のおヤジと話をします。『二言目には、シャブだもん。』おヤジサッカーの話とか、野球の話とかもちろんコロナのこととか、ごく普通の世間話をしたい。何のために刑務所来てるのかね。」とおヤジと話す。私はいつもこうやって話しをします。「進む道は一緒でしょう。だったら、ごく普通の話って、はじめをつければ

OKでしょう。」と話しをしめます。刑務官は、もう刑務所に来てもらいたくないし、私は、刑務所に来たくない。シンプルに考えれば分かると思うけど…。

プリズンライターズを読んで思うのは、刑務官に対しての文句が多い。刑務官も人間だし100%の人はいない。間違いはある。受刑者は法律を破って刑務所生活を送っている訳で…。私の考え方・生き方としては、99:1だと思います。100:0は人間にもAIにもいない。人間99悪いところがあっても、1コは必ず1つは良いところがあるし、逆に人間99良いところがあっても1つは悪いところある。なぜなら、私には、経験があるからです。中学生の時「千葉東リトルシニア」という硬式野球のクラブチーム創立3年目で関東大会ベスト4の主将で、チームメイト75名いましたので、一人一人の良いところを見つけ、チーム一がんで勝利を目指す。人間関係において、刑務所の中でも社会でも一緒。「この人のここが好き。」を見つけようと思います。私の中には、こんな座右の銘があります。「泣いて生まれて、誰かが泣く。その間は笑っていよう。」です。汪楠さん一笑健明にこれからは生きて行かないといけないのです。

話は変わりますが、12月8日にオミクロン株対応ワクチンを接種しましたが、12月14日朝の検温で37.5°Cあり、PCR検査を受け、陽性反応が出て、11日間の隔離生活をして、休養解除となりこの手紙を書いております。休養となって一人になって見て、病気の時誰も横にいない淋しさを強く感じました。これからは一人で生きるのではなく、自分の弱さを見せられる人を見つけ、人に甘えられる人間になろうと思う。人に甘える経験が人生53年のうちにたった8ヶ月だけだったので、人に甘えるということは、信頼関係がないと出来ません。だから、一笑健明なのです。

1月4日 新日の東京ドーム見たい！！

1月中旬から、就労支援の面接準備がスタートします。元来、生まれたのが、千葉市若葉区千城台という街です。千葉や東京23区で仕事を見つければ良いのです

が、札幌でいい縁に恵まれたので、新しい土地で、1から築いていこうと思います。これから札幌は、北海道新幹線の延伸工事や、JR札幌駅前を中心とした再開発工事で建設業の人手不足となっており、協力雇用主や職親プロジェクトで刑務所ではさかんにVTRで流れております。これから就労支援の時期なので、衣食住のある職場を見つけたら汪楠さんにご報告します。

最後になりますが、江戸川には私はゆかりがありません。昭和59年5月20日、江戸川河川敷で、江戸川南リトルシニアと練習試合をしました。この江戸川南リトルシニアは松坂大輔さんがいたところですが、けこの時中学2年生の5月でした。私はいじめを受け、リンチを受けて、右手小指を骨折していた。この時、チームメイトにウツついて、「ファールチップを受けて。」けどあの時主将だから…。違うと思う。

何故あの時学校でいじめ家では虐待を受けていた。今思えば、野球があるから良かったけど…。

あの時うまく仲間に甘えていれば良かったと思う。コロナ感染にはくれぐれもご注意ください、お身体にはご自愛下さい。



会員番号 A294 S.M.さん

拝啓

新春の候、汪さんスタッフの皆様におかれましては、体調など崩さず、元気にお過ごしでしょうか？新年明けましておめでとうございます。

去年はお手紙をはじめ、リクエスト本や会報、プリズンライターズ等を送っていただくなど、大変お世話になりました。有難うございます。

本年もどうぞよろしくお願い致します。

年末にプリズンライターズへの作品投稿、そしてリクエスト本依頼のお手紙を差し上げましたが、ちょうど入れ違いのタイミングで庄子さんからのお手紙を含む郵便物が届きました。感謝です。

早速、汪さんの「局長様わんレター」を笑いながら読み、「かえるのうた」では故田中元代表の人となりを知り、そして待望のプリズンライターズ vol.2 は楽しみながらじっくりと読ませていただきました。

今回も同じ境遇にある受刑者の様々な投稿を読み、刺激を受けましたが、そのなかに自分の作品が活字になって掲載されているのを見つけとても感動を覚えました。

手紙の一部も同時に紹介していただきましたが、社会の方、受刑者の方々がどのような受け止め方をするのかは気になるところですが、たとえどのような反応があったとしても甘んじて受け入れ、これからも投稿を続けてゆくことが私自身の受刑生活の励みになると思いました。私の文章が誰かの胸に届き、感じてもらえるのなら嬉しいですし、少しずつでも私自身のことを書いて行ければと思っています。

サエリさん(PJスタッフ)のメッセージにあるように、どんな形であれ心情を吐露するのは良いことですし、それを否定せずに受け止めてくれる「かえるPJ」の皆様を支えてもらえるのもまた嬉しいことですね。

そう汪さんは岡山ではなく岐阜でしたね……失礼しました。

ボランティア員であった故松永さんのお話しの「もう自分は仮釈なので、頑張ってるね」と後輩に声を掛けるものの、結局は彼ら有期の後輩たちが皆先に出て行ってしまうケースはここでもあるので、まあ笑い話の1つですよ(笑)

それでも30年を超えている先パイ方は多く居るも、明るく健全に過ごしている人がほとんどで、相手が無期だからと強気に来る有期の人間もたまに現れますが、上手くスルーしてますよね。

ここ何年かは31~32年ぐらいで出所している人が続いているらしいので私たち無期の間ではそこを目標にという流れになっていますが、まあ10年後はどうなっているか全く分かりませんしね。私自身も社会不在からちょうど20年が経ちましたが、ここまで来れば、もうとにかく前へ進むしかありませんので時間をムダにせず学習や読書、趣味や体を鍛えるなど自身のためになることを続け、日々を過ごしたいですね。



会員番号 A059 O.S.さん

「衝撃」

(「かえるのうた」26号からの続き)

私の人生で最初の転機(衝撃)は、ある日から、母の姿が忽然と消えたことである。

私と妹は、母恋しさ会いたさに、一文無しで大阪に家出、母と再会まで掻い摘んで記述。

後年、実母から聞いた当時の経緯など、少し補足します。

昭和15年1月 私は、大阪市浪速区元町にて誕生。

16年12月 日本は真珠湾を攻撃、太平洋戦争へ突入。17年6月 ミッドウェイ海戦で、日本艦隊(機動部隊)は大打撃を受け、戦況は最悪となっている。

7月 父は、硝子面取加工所を営んでいたらしいです。が、兵役招集により閉所。この時、母は妹を懐妊していました。

『私が生まれて、父が兵役までの2年半の記憶に、近くに消防署があり、赤い自動車、また近くの踏切りで走る汽車などに興味をもって、玩具も自動車・電車・汽車(当時はブリキ製)で遊んでいた記憶が残っています。この期間が、父、母、私たち家族の一番幸せな時期であったように思います。』

9月 妹(照子)が誕生。母は父が兵役でいないので、仕方なく郷里の愛媛県宇和島市に、私と妹を連れて帰る。

19年2月 父は胸の病気で除隊、岡山療養所に入所。母と私と妹は、岡山市弓之町に転移(父の郷里)。

20年8月 終戦(日本は無条件降伏)。母は間もなく、岡山駅前の市電停留所近くに、おでんの屋台を出

したそうです。当時、食べ物は何でも飛ぶように売れたので儲かったそうです。

21年3月 父の弟(敏雄叔父さん)が、戦地から帰ってきた。父は弟が帰ってきたことから、胸の病は完治していないが退所して、市内下石井柳町に、奥川硝子鏡面取加工所を設立(敏雄叔父さんはここに住む)。

4月 私は、弘西小学校に入学(入学式には母が出席)。

7月 妹(二女、美代子)が誕生。

『弓之町は一丁目から六丁目まであって、一丁目の向こう側は旭川(一級河川)、鶴見橋を渡ると後樂園(水戸の偕楽園と金沢の兼六園と日本三名園の一つ)、二丁目と三丁目の一画に、習実女学校(照子はここを卒業)、三丁目と四丁目の一画に弘西小学校(私と照子はここを卒業)。岡山に引っ越して1年8か月の間に、2回空襲を受けている。その時、母と私と照子は、鶴見橋の下に逃げていたことを記憶している。また、父が大阪で経営していた加工所は空襲で焼けている。借地のため、父は病と空襲で落胆していたが、弟が戦地から帰って来たことで奮起、また母の屋台が儲かっていたので、援助(資金)ができたそうです。が、加工所が軌道に乗ると、父は女を囲うようになったそうです。それで、下石井柳町に引越し、敏雄叔父さんが弓之町に転移。』

昭和23年7月 妹(三女、加代子)が誕生。10月 市内下石井柳町に引っ越すことになる。

24年4月 長女、照子、弘西小学校に入学(本来は、下石井柳町区内の出石津小学校に入学になるが、父は柄が悪いということで区外入学。因みに、二女美代子と、三女加代子は出石津小学校に入学)。

8月 母が突然いなくなり、新しく、継母(田中静子)と生活することになる。

9月 家出(私と照子は、母を尋ねて三千里ではないけれど、母恋しさ会いたさに、無謀にも一文も持たず、大阪に旅立つ)。

『父の女道楽に悩む実母は、山岡の小父さんに相談。

その時「カツちゃんがしっかり者だから、実さんは安心して遊んでいる。一度、一日か二日、家を留守にしたらどうだろう。実さん、これはいかんと家に帰るようになるのと違うやろか。」と言われ、一日か二日のつもりで家を空けた。ところが、強情な父は逆に、それならばと囲っていた女性を家に入れてしまう。帰るに帰る場所がなくなって、やむなく大阪の兄(義春伯父さん)に相談。料理屋の住み込み中居をして暫くは様子を見ることにしていた矢先に、私と照子が岡山を飛び出して来たので、吃驚したと話していた。また、父が岡山から私たち兄妹を迎えに来た時、私が「いやだ」と強固に言い張って、その場から逃げ出そうとした。本当に「どうしたらいいのか」と困ったとも言っていた。私は一人息子なので、父は絶対に手ばなさない。妹の照子は後、渡しても良いようなことを言っていたらしいことを、実母から聞かされた。』

『山岡の小父さんとは、父の加工所の表通りの山岡利三郎商店(ガラス店)の店主で、父とは非常に懇意にしている、得意先でもある。父のことは、「みるさん」と呼び、実母のことを、「カツちゃん」と呼んでいました。結果的に山岡の小父さんの進言は、父と実母を完全に引き離したことになるのである。

しかし父は、何故か、離婚にはなかなか判を押さなかった。が、12年後、妹、照子が習実女学校を卒業した時、大阪の実母に譲り、離婚を承諾。そして、2年後に逝去している。従って、田中静子さんは籍に入っていない。』

(つづく)



プリズン Book レビュー

ザキさん

私が参考になっているのは「本屋大賞」です。本屋大賞はハズレがほんとに少ないと感じます。2～10位の作品にも、おもしろい作品が沢山あります。今回は各年3位までを載せて置きますので、参考にしてみて下さい。ちなみに私の、いち推しは「かがみの孤城」2推しは「横道世之助」3推しは「君の膵臓～」になるかなー。今回はランク外ですが17'の9位「コンビニ人間」も、捨てがたいっす。

- 2010 大賞 天地明察(沖方丁)
2位 神様のカルテ(夏川草介)
3位 横道世之助(吉田修一)
- 2011 大賞 謎解きはディナーのあとで(東川篤哉)
2位 ふがいない僕は空を見た(窪美登)
3位 ペンギンハイウェイ(森見登美彦)
- 2012 大賞 舟を編む(三浦しおん)
2位 ジェノサイド(高野和明)
3位 ピエタ(大島真寿美)
- 2013 大賞 海賊とよばれた男(百田尚樹)
2位 64(横山秀夫)
3位 楽園のカンヴァス(原田マハ)
- 2014 大賞 村上海賊の娘(和田竜)
2位 昨夜のカレー、明日のパン(木皿泉)
3位 島はぼくらと(辻村深月)
- 2015 大賞 鹿の王(上橋菜穂子)
2位 サラバ(西加奈子)
3位 ハケンアニメ(辻村深月)
- 2016 大賞 羊と鋼の森(宮下奈都)
2位 君の膵臓を食べたい(住野よる)
3位 世界の果てのこども達(中脇初枝)
- 2017 大賞 蜜蜂と遠雷(恩田陸)
2位 みかづき(森絵都)
3位 罪の声(塩田武士)
- 2018 大賞 かがみの孤城(辻村深月)
2位 盤上の向日葵(柚月裕子)
3位 屍人荘の殺人(今村昌弘)
- 2019 大賞 そして、バトンは渡された(瀬尾まいこ)
2位 ひと(小野寺史宜)
3位 ベルリンは晴れているか(深緑野分)

事務局長のつぶやき

会員の皆様、お疲れ様です。今月号から「かえるのうた」をA4サイズにリニューアルします。それに合わせて内容も少し変更します。

まずは一部の内部会員にだけ送っていた「わんレター」ですが、好評につき内部会員全員に送るようになりました。それで初めて「わんレター」の存在を知った方も多と思います。私としては「かえるのうた」はPJの公式会報誌であり、おふざけはよくないと考え、自分なりに言葉を選んで編集後記や告知を書いてきました。一方では文通していたころは内部会員と交流はありましたが、現在はほとんど文通しておらず、これに対してワンさんはまだいますか？という質問も来るくらいで、自分の健在と皆さんとの交流を考えて「わんレター」と称して、一種の公開書簡を始めたのです。

この「わんレター」を昇格させて、「かえるのうた」に載せることにしました。飾らない言葉で時には悪口を言い、時には笑いもとるスタイルで登場します。外部会員の皆さんがビックリするかもしれません。

プリズンライターズを始めて、多くの投稿があり、本当にうれしい限りです。そして刑務官に関する投稿が多いという指摘がありました。これについては思うことがあります。私も元受刑者として刑務所内の処遇を十分知っています。しかし私は刑務所を批判する文章を書かないように気を付けています。というのは私はほんにかえるプロジェクトを運営しており、第一に考えるのは活動のことであり、皆さんとの付き合いを大事にしたいのです。当局を批判すると活動がもろに難しくなります。ただでさえ書籍の差し入れ制限で苦しいのに、嫌われたらどんな口実でもやり取りが禁止されるので、そうなったら何をしても無駄です。

過去に刑務所で起きた暴動事件を見てもわかるよう

に、刑務所で不利益な扱いを受けたときに訴える先はあっても改善されることはめったにありません。刑事施設視察委員会の提案箱はあるけど、匿名で保障されるはずなのに、刑務官に渡される提案箱の用紙には番号が振られているところもあり、だれかいつに投かんしたのかキッチリ把握されているのです。しかもご丁寧に提案箱の前に和解刑務官を立たせており、睨みを利かせているのです。

この現状を含めて、PJは力になれなくてもせめての思いで発信できる場を作りました。もちろん目的はそれだけではありません。競馬予想のような更生と関係ない投稿も採用しています。どうであれ考えていることを発信できれば、少なくとも被支援者とスタッフの相互理解につながると思います。また社会にも受刑者が何を考え、何を経験したのかを知っていただけないかと思います。高尚な文章である必要もない。だからこれからも気軽に投稿していただきたい。

第5部を設立します。主に出所後の生活を支援する部署です。無期の方にも告知を送ります。出所できると信じ頑張っている皆さんを応援します。

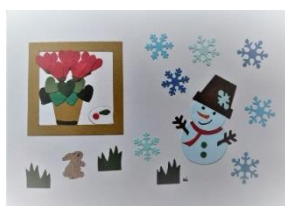
基本的に出所後に働ける人を想定しており、希望者には求人している企業にお願いし、身元引受人も住むところも相談する予定です。お互いの条件が合えば雇用主として環境調整に入り、仮釈放の条件を一つクリアできるかと思います。第5部は今までの1部、2部、3部と違い、ネット検索や購入代行といった通常のサポートをとりあえず受けることはできません。第5部をサポートするのは企業になります。

詳細は同封の「告知」をご覧ください。

出所後働ける方を想定していますが、事情により生活保護を受けざるを得ない方も多く、そういう方も第5部が相談を受け付けます。

次回の「かえるのうた」で、生活保護について説明します。

誕生カードをお贈りしました



1月2月



3月4月



5月6月



7月8月

「わたしが与える水を飲む者は決して渴かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」

ヨハネによる福音書4章14節

8月に入りました。7月からずっと猛暑が続いていますが、中の皆さまの暑さ対策はどうなっているのでしょうか？

どうぞできるだけ、こまめな休憩、水分補給をしてくださいね。

さて聖書には度々、「命の水」の話が出てきます。渴いている者には、無料で飲ませてくださると書いてあります。(ヨハネの黙示録21章6節、22章17節)

これはイエス様からの招待状だと教えていただいたことがあります。のどの渇きだけでなく、心の渇きも潤してください。誰でも求める者には、ただで与えてくださいます。

皆さまがこの夏、心も体も元気に過ごせますようにお祈りしております。

(誕生カード担当 M.ロザリア綾)

編集後記

A4サイズでの編集が初めてでいろいろと勝手が違っていて難しい。まずパソコン画面で見たイメージと実際に印刷した時のイメージがだいぶ違うのです。何回か印刷してやっとできたのがこれです。

また小冊子で印刷するので、4枚の倍数で編集する必要があります。今回は12枚編成で、16枚編成で作るには原稿が足りず、締め切りもあるので、寸足らずの12枚にしました。なので「わんレター」を書くスペースがありません。最後にまたお願いですが、原稿をお寄せください。楽しみにしています。

ほんにかえるプロジェクトは外部会員(受刑者以外)を募集しています。正会員の年会費は3000円。寄付もお待ちしています。

振込先

ゆうちょ銀行 10160-86239211

他行からの場合

ゆうちょ銀行〇一八支店

(普) 8623921

口座名義:ほんにかえるプロジェクト

ほんにかえるプロジェクトはボランティアスタッフを募集しています。在宅のままでもできるパソコン入力と文通スタッフが特に不足しています。自宅の住所を公開する必要もありません。プライバシー保護に細心の注意を払っております。

プロジェクトの活動資金の捻出の一環として小冊子を販売しています。

「**我的童年**」(私の生い立ち)

(A5サイズ 88頁) 500円

「**獄中書簡集**」

(A5サイズ 82頁) 500円

その収益は全額支援活動に充てます。好評につき、残部が少なくなり、手作業で増刷中です。

かえるPJの送付物には、リストに掲載しなかった**ガチャ本**を同封することがあります。不要な方はご連絡ください。送らないように気をつけますが、もしも間違えて送ってしまったときはお許しください。

発行所

〒134-0003 東京都江戸川区春江町

5-15-31

ほんにかえるプロジェクト事務局

電話 080-8811-5465